小学国語通信
教育出版
ことばだより
Vol.12
2023（令和5）年5月

新版教科書によせて

「学び」に寄り添う教科書

「国語」の教科書は、児童･生徒に寄り添い、その「学びの心」を活性化し、いきいきとした国語学習を成立させることのできるものでなければなりません。そのために大事なことは、学び手の内なるヒューマンな心を呼び覚ますとともに、日本語の知識・技能を自ら習得する力を身につけていくことです。

言語の習得は、幼児の言語習得の実際を見れば明らかなように､それができるのは､言語を学び手自身のものにしていく力が、学習者の内にはたらくからです。そこで大事なのは、言語はどのようにして習得されるのか（言語習得のメカニズム）を踏まえて、言語習得力を高めるような言語体験の充実を図ることです。

そのために私たちは、学び手である子どもに寄り添うとともに、教師の教える心にも寄り添って、新しい時代にふさわしい教材及び学習活動の開発に努めてきました。それは、言葉の学びを、人間が人間として生きる営みとして見るという、基本的にして、伝統的な考えによるものです。

この教科書が先生がたのお力で、新しい時代をひらく手がかりともならんことを祈念したいと思います。

東京学芸大学名誉教授
田近洵一（たぢかじゅんいち）

言葉の運用能力を養う

私は、小学校における国語教育は言語の教育が中心でなければならないと考えています。国語教育の目標の一つが､学習指導要領がいうように｢国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することであるなら、重要なことは言葉の運用能力を養うことです。

「言語事項」は抽象的な事項として指導するのではなく、具体的な表現に即して考えさせることが大切だと、私はさまざまな場所で繰り返し述べてきました。令和6年度版『ひろがる言葉 小学国語』は､｢学習のてびき」に「言葉」のコーナーを設け､教材の本文に着目し､文法的な知識や考え方を使って読みを深めることができるようになっています。さらに、そこで学んだことを「てびき」のどの学習場面で生かすことができるのかを、わかりやすく示しています。

教育出版の国語科教科書は、生活の中で言葉を的確に捉え、自分の言葉で考え、表現する力を養うことを大切にしています。新しい『ひろがる言葉 小学国語』を使った授業により､言葉の運用能力を養い、確かな言葉の使い手を育てる国語科学習が展開されることを願ってやみません。

元筑波大学学長
北原保雄（きたはらやすお）

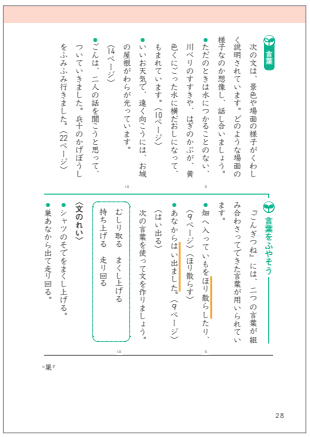
私たちは、言葉のなかに生きている

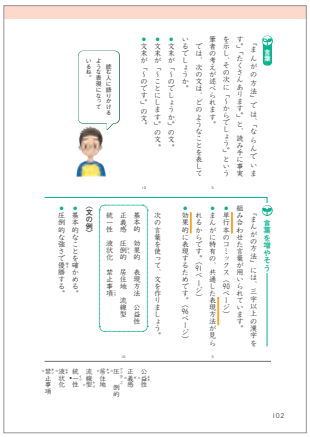
子どもは言葉のなかで成長していきます。
子どもが「言葉」と出会い、
その「言葉」がさらに新しい「言葉」との出会いを生み出していく。
学びは子どもの世界を広げ、生きる力を育みます。

子どもたちの「言葉」を増やす教科書

東京学芸大学教授
なかむらかずひろ
中村和弘

小学校の多くの先生がたが、「子どもたちの語彙を豊かにしたい」と願っていると思います。語彙のリストのような一覧を教室に掲示するという方法もありますが、私は、もっと効果的な教え方があると考えています。それは、読んでいるときや書いているとき、まさにそのときに、ぴったりな言葉を子どもに出合わせるということです。「ああ、そういう言い方があるのか！」「確かにそう書けばよく伝わるね！」「だから、人物の気持ちをその言葉で表現したのか！」と、子どもたちはリアルな状況の中で言葉と出合い、理解を深めたり使い方を更新したりします。この言葉との出合いや発見、更新こそが、魅力ある国語の授業の核であり、子どもたちが言葉に興味をもち、語彙を増やそうとする主体的な態度の源となります。令和６年度版の教科書では、「読むこと」単元にある「言葉」のページがリニューアルされ、読んだり書いたりする活動を通して、語彙を増やし豊かな表現力が身につくように工夫されています。

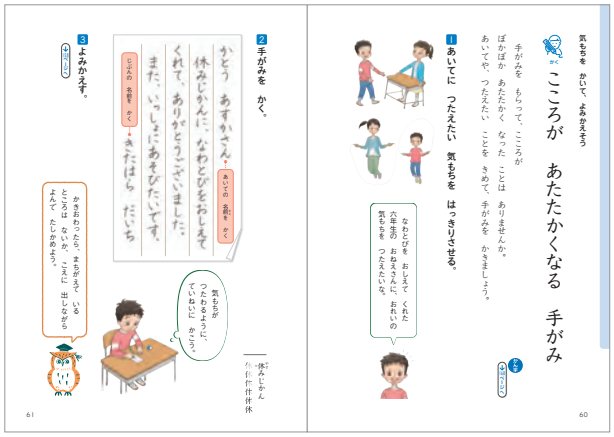

四下『ごんぎつね』てびき


五下『まんがの方法』てびき

「学びが生きる」ことを実感する表現教材

帝京大学准教授
坂本喜代子（さかもと きよこ）

学びの主役は子ども。令和６年度版の『ひろがる言葉　小学国語』は、「学んだことが生活で生かせた！」と実感できる教材と言語活動で構成されています。『こころが　あたたかくなる　手がみ』（一下）は、６年生へのお礼の手紙の書き方を学びます。できごとを思い出し、そのときの気持ちを言葉にして伝えることで、言葉のもつ温かなつながりを作るという役割を実感します。日常生活が表現活動につながり、生活科の学習でも生かすことができることでしょう。『パネルディスカッション――地域の防災』（六上）は、現代の課題である防災をテーマにした話合い活動を行う教材です。調べたことや資料をもとに意見を述べたり、確認のために問いかけたりすることで理解が深まることを学び、表現方法を選択するスキルと発言を関連づける思考力を身につけることができます。学習のためのスキルは巻末付録に整理されていますので、他教科や他領域での話合い活動で活用することができます。子どもたちの身のまわりにある課題に、学んだことが生かされることを実感できることでしょう。



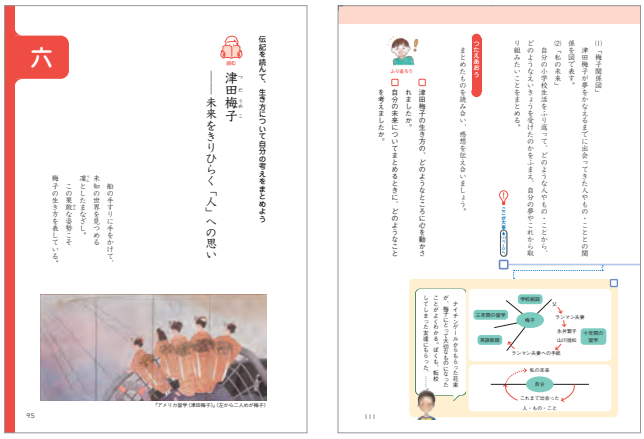
一下『こころが　あたたかくなる　手がみ』

主体的な学習を促す新しくなった伝記教材

横浜市立一本松小学校教諭
奥村千絵（おくむら ちえ）

2024 年。紙幣が新しくなります。新五千円札に描かれているのは、津田梅子（つだ うめこ）です。６年下巻に掲載されている伝記教材には、その津田梅子の人生が描かれています。『津田梅子――未来をきりひらく「人」への思い』は、梅子がどのような人生を送ったのか、どのような人物像なのかを読み取ることができる教材です。

梅子は、さまざまな人やできごとに出会い、夢の実現への道を進んでいきます。「学習のてびき」の「まとめよう」では、梅子が出会ってきた人・もの・ことの関係図を作る活動や、小学校生活を振り返り、未来について考える活動が選択できるようになっています。選択式になっているので、学び手である子どもたちが、主体的に関わることが可能となります。また、てびきの下段に例が載っているので、参考にしながら、安心して取り組むことができます。



六下『津田梅子』単元扉／てびき

先生がたの日々の授業を支える

教師用指導書

のご案内

●総説編

年間の活動を計画する際に役立つ各種の参考資料を掲載しています。

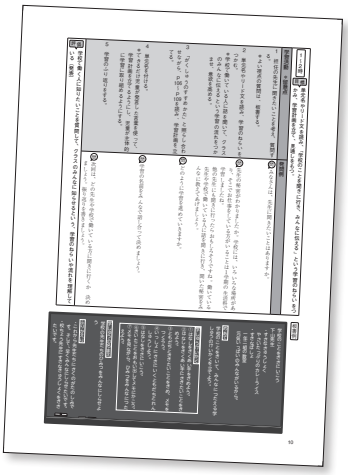
●解説編

各教材の詳細な内容解説を掲載しています。日々の授業の準備はもちろんのこと、研究授業の準備等にもご活用いただけます。

●展開編

毎時の授業における活動の留意点や、具体的な発問例・板書例など、先生がたの日々の授業を支援する豊富な情報をご確認いただけます。

授業のイメージがつかめる！



令和６年度版「展開編」イメージ

●朱書編

教科書と同じ紙面に、教材研究に関する内容を赤字で、授業展開に関する情報を青字で、二色に分けて掲載しています。実践の場で参考となるように、授業に必要な情報が端的に捉えやすい紙面の工夫をしています。

●ワークシート

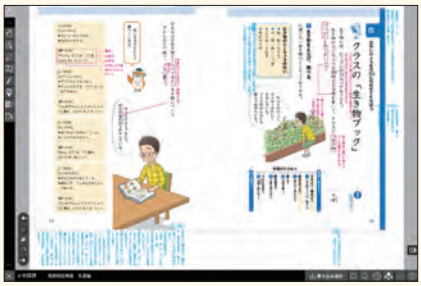
「展開編」の授業展開にあわせたワークシートを、改変可能なデータにて提供いたします。子どもの記入例入りのものもあわせてご活用ください。

「デジタル指導書」で働き方改革！

令和６年度版から、教育出版の指導書はデジタル化します。

国語では、「展開編」と「朱書編」をデジタル化予定。端末があれば、職員室でも、教室でも、授業に必要な情報に容易にアクセスできるので、授業前も授業中も安心です。

令和６年度版デジタル指導書本棚イメージ



令和６年度版「デジタル朱書編」イメージ

■ポイント１

指導書が自分だけのものに！

自分だけの書き込みデータを保存することも可能になります。

■ポイント２

いつでも、どこでも使える！

どの端末からもアクセスが可能です。

■ポイント３

どの教科も一緒に見られる！

複数教科の指導書（教育出版発行）を、同一の本棚画面から確認できます。

※上記内容は、予告なく変更する場合があります。　※紙面はイメージです。

本誌のデザイン

『小学国語通信　ことばだより』では、デザインに季節ごとの「かさねの色目（いろめ）」（平安時代以降の服飾文化に用いられた色彩）をイメージした配色を用いています。今号では、かさねの色目の中から、四季を通して用いられる四季色目、「二つ色（ふたいろ）」を選びました。ぜひ次号のデザインもご覧くださいますと幸いに存じます。

※「かさねの色目」の組み合わせには、諸説あります。

小学国語通信　ことばだより　Vol.12　　2023（令和５）年５月発行

教育出版株式会社　編集局　国語科
〒135-0063　東京都江東区有明 3-4-10　TFT ビル西館　　TEL：03-5579-6278（代表）

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配布を許可されているものです。